
「鼻中隔穿孔閉鎖術後の症状予測における術前 septal patch test の有効性の検討」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、埼玉医科大学病院 IRB の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。
本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2022 年 4 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日の期間に埼玉医科大学病院耳鼻咽喉科を受診し、鼻中隔穿孔と診断され、鼻中隔穿孔閉鎖術を受けられた 18 歳以上の患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

鼻中隔は左右の鼻腔を仕切る壁であると共に、鼻の気流を調整する役割があります。鼻中隔に穿孔（穴）を来すことで、鼻づまり、鼻呼吸の違和感、鼻笛（吸気時に音が鳴る）など様々な症状が起こります。鼻中隔穿孔閉鎖術は非常に難易度の高い手術です。しかし、鼻中隔穿孔閉鎖術を行っても鼻づまりなどの症状が改善しないときがあります。それは鼻中隔穿孔が鼻づまりの原因ではない場合です。鼻中隔穿孔閉鎖術の適応は、患者さんが鼻中隔穿孔とともに鼻づまりなどの症状がある場合、とされています。つまり、鼻中隔穿孔の存在が鼻づまりの本当の原因を見誤らせてしまうことがあります。

私たちは鼻中隔穿孔をもつ患者さんに対する鼻中隔穿孔閉鎖術後の症状緩和を予測するための Septal patch test を開発しました。濾紙を鼻中隔穿孔のサイズに切って調整し、鼻中隔に貼り付け擬似的に鼻中隔穿孔を閉鎖することで症状が緩和するかどうかを確認する検査です。

本研究の目的は鼻中隔穿孔患者に対して septal patch test が鼻中隔穿孔閉鎖術後の症状の推測に寄与するかどうかを検討することです。

3. 研究期間

病院長の許可後～2027 年 3 月 31 日

4. 利用または提供の開始予定日

2025 年 3 月 17 日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

患者さんの情報として、年齢、性別、鼻副鼻腔ＣＴ画像、外傷歴（怪我の有無）受けられた手術術式、症状アンケートを使用します。

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学病院耳鼻咽喉科において、研究責任者である細川悠が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

２．試料・情報の取得方法

鼻中隔彎曲症と診断された患者さんの電子カルテデータベースから情報を抽出します。

３．試料・情報を利用する者（研究実施機関）

埼玉医科大学病院 耳鼻咽喉科 講師 細川 悠

４．試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学病院 病院長 篠塚 望

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学病院 耳鼻咽喉科 講師 細川 悠

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

Tel : 049-276-1253 (内線 8277)

Fax : 049-295-8061

E-mail : hosokawa.yu@1972.saitama-med.ac.jp

○研究課題名：鼻中隔穿孔閉鎖術後の症状予測における術前 septal patch test の有効性の検討

○研究責任者：埼玉医科大学病院 耳鼻咽喉科 講師 細川 悠